



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

ふれあい病院フェスティバルを開催します

毎年5月12日は「看護の日」です。近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ制定されました。

「看護の日」には、全国で関連行事が開催されます。市民病院では、21世紀の高齢社会を支えるため、看護師はじめ、さまざまな医療職が集まり、市民の皆さんに自分や家族の健康に関心を持ってもらえるようふれあい病院フェスティバルを開催します。骨密度測定や理学療法士による口コモチェック、歯科衛生士による口の中の健康チェック、医師や栄養士への健康相談コーナーなどを開設します。また、今年は新しく認知症予防コーナーも加わります。

参加は無料で予約も不要ですので、皆さんお誘い合わせのうえ、気軽にご参加ください。

ふれあい病院フェスティバル

とき 5月18日(金) 9時～12時

ところ 市民病院



碧南の歴史へのいざない

問合せ
文化財課内市史資料
調査室 ☎(41)4566

No. 47 大浜藩が生まれてまもなく250年(1)

江戸時代の中ごろ、油ヶ淵の南には南北に長い大浜村のほか棚尾村と平七村、鷺塚村がありました。今から250年前の1768年、幕府で高い地位についた水野忠友は、37歳のとき、大浜村やまわりの村と信州佐久郡で合計1万3千石（1石は米150kg）の土地を幕府からもらいました。



△水野忠重

幕府のきまりでは1万石以上の領地をもつと「大名」になることができたので、忠友は殿さまとなり、現在の碧南市羽根町に大浜陣屋という役所がつけられました。しかし、大名とはいえ3万石に届かないので石垣や堀、天守閣をもつ、いわゆる「お城」をつくることは許されませんでした。

普通の殿さまは、参勤交代といって、江戸と領地で1年おきに生活するきまりがありました。しかし、忠友は、大浜陣屋の殿さまでしたが、陣屋に住むことはできませんでした。それは、忠友のように老中や若年寄という高い地位につくと、領地へ帰ることは許されず、江戸での生活になったからです。

忠友は、戦国時代の終わりごろにわけあって鷺塚の片山家に身を寄せていた水野忠重という武将の子孫であり、忠重には「おだいかた於大の方」という姉がいて、この姉が15歳で家康を産んでいます。

忠友の先祖は、家康の母の家系である水野家ということもあり、忠友は8才で、後に10代将軍となる徳川家治のこしやう小姓（主君に最も近い位置で奉公する家来）になっています。その家治は、父家重の遺言に従い、たぬまおきつぐ田沼意次を側用人という高い位につけて幕府政治を進めました。